乳牛用配合飼料

Yodel series

ヨーデルシリーズ

●ヨーデル16
●ヨーデル18
●ヨーデル20

ニッテン配合飼料
ロングセラー
乳が良く出る〝ヨーデルシリーズ〟

ビートパルプ配合
TDN72



公式キャラクター
「ミルテン」

シンプルな原料を配合し、**国産ビートパルプ**、
糖蜜を加え、嗜好性を高めています。
イースト菌がルーメンを活性化させ、
牛本来の能力を存分に発揮できます！
TDNを抑えた製品で、
デントコーン主体の農家さんにピッタリです。



基本情報

用　途	分離給与用
C　P	16・18・20
T D N	72
荷　姿	500kg(16のみ20kg有)
形　状	ペレット&フレーク

Nitten

株式会社 ニッテン

ビートパルプの給与効果

ビートパルプはルーメン内で緩やかに発酵し、微生物がアンモニアを効率よく利用できる環境を作ります。(図１)
そのため、分解性蛋白の給与によって発生する余剰アンモニアを低減できます。
余剰アンモニアが減ることで、肝臓での尿素合成負担の軽減につながります。
また、配合飼料に比べてルーメン内pHが安定しやすい特長があります。
図２の通り、ビートパルプ給与時はアンモニア態窒素濃度が低く推移しました。
ビートパルプはルーメン機能を維持しながら、アンモニア低減に貢献する飼料です。

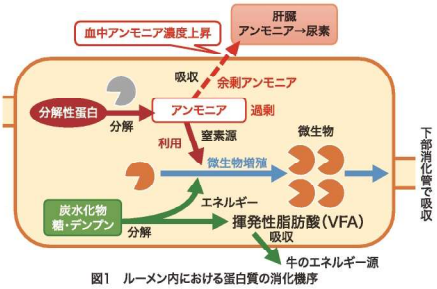


図1　ルーメン内における蛋白質の消化機序

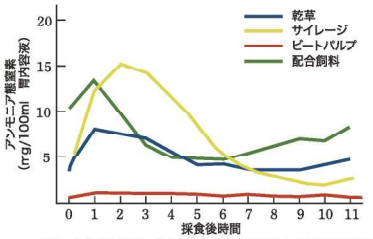


図2　各飼料を採食した後のルーメン内アンモニア態窒素の変化
(和泉 1974)

イースト菌の給与効果

**「ルーメン環境を改善し、
潜在性ルーメンアシドーシスの疾病リスクを低減させます」**

牛に活性イースト菌を給餌するとルーメン内で乳酸利用菌の活性を高めることから、ルーメン環境を改善し、潜在性ルーメンアシドーシス(ルーメンpHが5.6～5.8以下になり採食量低下をもたらす)の疾病リスクの低減につながるといわれています。
図1は活性イースト菌を21日給与した群(イースト群)と給与しなかった群(対照群)のルーメンpHが5.6以下になった1日当たりの時間(分)を測定したものです。イースト群では対照群と比べて潜在性ルーメンアシドーシスになる時間が有意に低くなりました。

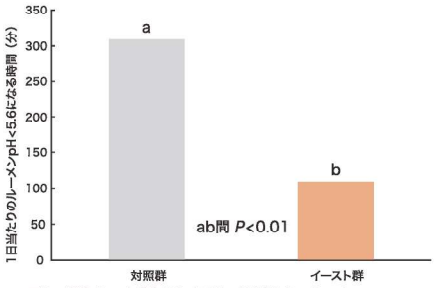


図1　活性イースト菌有無による牛の1日当たりのルーメンpH<5.6になる時間の違い
(Alzahal, et al., 2014, J.Dairy. Sci., 97, 7751～7763を改変)

「ストレスを緩和し、乳量の増加が期待できます」

近年、全国的に暑さが厳しい日が増えてきており、高温ストレスは乳牛の生産性や健康に影響を及ぼします。牛が高温ストレスを受ける前に、3週間活性イースト菌を19g/日給与する事で、ストレス指標である血中コルチゾールが減り、乳中の体細胞数も低下しました(図2, 3)。さらに乳量の増加も報告されています(Nasiriら, 2019、Perldomoら,2020)。
また、冬季間における活性イーストの給与においても乳量の増加や乳成分の改善が報告されています(Imrichら,2021)。

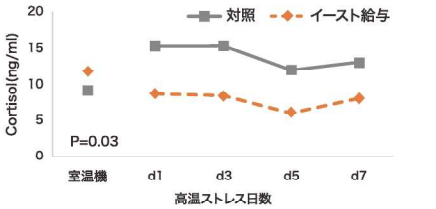


図2　活性イースト菌給与による血中コルチゾール濃度の違い
(Al-Qaisi, et al., 2020, J. Dairy. Sci., 103, 9634～9645を改変)

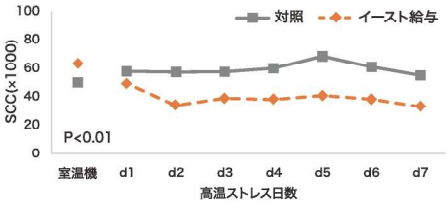


図3　活性イースト菌給与による乳中体細胞数の違い
(Al-Qaisi, et al., 2020, J. Dairy. Sci., 103, 9634～9645を改変)

Nitten
株式会社ニッテン
ニッテン配合飼料
公式HP
Facebook
Instagram
NITTENFEED